

【同窓会報告】

55 回生、卒後 32 年を北九州に集う

西村 収一

昭和 56 年卒業以来、「オリンピックの年は我々 55 回生の同窓会開催の年」を合言葉に、去る平成 24 年 11 月 17 日（土）、18 日（日）の両日、秋色が深まるなか玄界灘を見下ろす「かんぽの宿 北九州」（北九州市若松区）にて西谷先生にもご出席いただき総勢 13 名、そのうち女性は全員参加の 4 名で開催しました。山田先生にもご出席していただける予定でしたが急用のため、出席叶わず大変残念でした。

当日は、16 時に小倉駅に集合し、送迎バスにて宿に到着、玄界灘に沈む夕日を眺めながら露天風呂で汗を流して、早速、部屋で再会の喜びを肴にビールで乾杯。

恒例になった吉村氏の乾杯の音頭で開宴のあと、西谷先生よりプロジェクターを使って大学の近況報告とご挨拶をいただいた。

玄界灘の荒波で育った新鮮な魚に舌鼓を打ちながら会が盛り上がる中、「55 回生の思いで」と題する西谷先生の特別講義をしていただき会は絶好調に達した。

プロジェクターに映し出される懐かしい学友の姿・旧レ専校の校舎・久しぶりに拝聴した西谷先生の講義に参加者全員が 30 年前にタイムスリップしていき、ノスタルチックな世界に包まれながら西谷先生に続いて全員でレ専校校歌を斉唱・記念撮影を行い予定の時間がアツという間に過ぎていった。一次会の余韻が残る中、先生を囲み全員で二次会に突入、学生時代の思いで・過去のクラス会での怪しい豪遊話・健康・仕事・親の介護・子供の進学や就職・年金など時間を忘れて語りながら夜が更けていった。しかしはやる歳波には勝てず、クラス会をやる度に同窓生の体力、気力、アルコール量も減り、夜更かしも身に堪えるようになったと感じたのは小生だけでしょうか？

翌日は、送迎バスで門司港に移動して関門海峡を行きかう船や関門橋を眺めながらレトロ地区を散策・名物の焼きカレーを食して、次回同窓会での再会を約束して散会した。

出席者

西谷 源展先生、安藤 博敏、岩崎 清吾、岩崎 由香、越智 祐貴子、中森 勇二、久保井 清隆、堤 英幸、萩原 まゆみ、堀井 均、安部 圭子、吉村 和彦、西村 収一（略敬称）



以上